

# 知床の森から

平成8年6月  
第43号

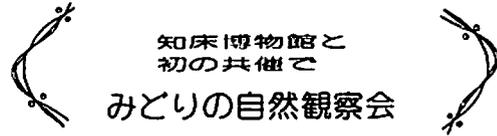


北見営林支局  
知床森林センター

☎ 099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

春いっぱい!

息吹く森!



斜里の町の近くで豊かな自然が残り、地元で「発見の森」と呼ばれている森(国有林142林班)で6月2日『みどりの自然観察会』が開かれました。この観察会は知床森林センターと町立知床博物館との初めての共催で、主として斜里町民を対象にしたイベントです。センターから3人、博物館から2人の職員が案内と説明に当たりました。

当日9時に町民運動公園テニスコート前駐車場に集まった参加者は14名で、うち子供は5人です。9時10分に行動を開始した一行は、まず小鳥のさえずりに望遠鏡をセットして観察。目前でホバリングする小鳥に唖声。これはピンズイという鳥で渡りの夏鳥でした。アカハラもいました。砂地では鎧地獄(ウスバカゲロウの幼虫)を観察。またタチツボスミレやミヤマハンショウツルも咲いていました。森に入ってから草の生えた小径を中心に歩きました。樹木の水を吸い上げる音を聴診器で聴き、径沿いに生えた幼い木を観察しました。またクマガラのあけた孔、芽吹きの小枝、ミスナラやハリギリの大木、オオバナノエンレイソウの白い花、咲き残りのフデリンドウ、キタキツネの巣穴、トクサの群落とチャシ(先住民族の岩あと)、湿原でのエソサンショウウオの卵塊と幼体など、コースに沿って次々と場面が展開し、おおいに楽しめました。まさに「発見の森」です。

全コース1.5km ちよつとですが、身近な森の中にも発見と驚きがあります。参加のみなさんは約2時間のイベントを、楽しく面白く過ごしたようです。

(このイベントはセンターでは第9回の「森とのふれあい」として位置づけられています。)



## 視線は山菜に!

~~知床、すべてが新鮮~~

淡い緑が眩々しい春の知床で、6月8日(土)に第30回「森林レク・In知床」を実施しました。参加者は北見市・網走市・斜里町から児童2人を含む25名が参加しました。

コースは旧道を中心とする約3.4kmで、緩やかな下りの蛇行する林間コースです。

当日は最高の天気にも恵まれ、若葉が陽にきらめき明るい森では小鳥がさえずっていました。コース沿いにはめつたに見られない大木の数々、小沼、熊の爪痕、道沿いに咲く森の花など自然観察の対象はたっぷり。聴診器で聴く樹液の流動音に、「生の神秘だね」と感嘆した人もいました。とくに山菜は数が多く、今回も参加の多かった女性たちには格好の知的な刺激となったようです。どこでも沢山採れるにもかかわらず、知らなかったというハンゴンソウはしっかり覚えたようです。

橋の決壊した川をロープを伝って渡るささやかな冒険も盛り混ぜ、ゆっくりと歩きながらの自然観察と森林浴を、イベント参加のみなさんは十分堪能したようです。



## みどりと清流を求めて

知床自然観察教育林をトレック

6月21日(日)、第31回「森林レク・In知床」を、一般と緑を増した知床自然観察教育林内で実施しました。参加者は北見市・美幌町・斜里町からの20名でした。うち男性は4名で、17名の方が初参加者でした。

今回は『自然観察と森林浴』がテーマ。森は雪解けの遅れに関係なく、潤るような緑でした。流れのある空沢を飛び石伝いに渡り、昔の沢渡跡の森、トドマツ天然林、そしてこの教育林のシンボリックな存在である水を溜めた「ホンホ口沼」、ロープ伝いの急坂下り、そして「ホロベツの滝」。滝は豊かな水を落下させて圧巻のもの。

1800坪の流域面積を有する「ホロベツ川」を渓流沿いに登って、「クマガラの滝」の河原で昼食。

午後からは「エソズリハ」の群落、原始そのものの針広混交林、「トドロキの滝」などを楽しみました。帰途のコース沿いに「タモギタケ」「シイタケ」を発見し、歓声が沸きました。全行程5km余りで4時間、登り下りの山道を歩き、知床の深い森と変化に富む数々の場面との遭遇、インストラクターの案内のもと、日常の生活から原始的な風貌を今に遺す知床の自然にワーブして、多くの自然を体験し森林浴を楽しんだ一日は終わりました。

## 知床に思いを馳せる

緑化第1係 稲川 啓

全長約65km、北東に突き出た島、知床半島。転動をするなら利尻島が知床に行きたいとの思いが叶い、この4月から知床の玄関口である斜里町の知床森林センターに勤務することになった。もちろん、管轄は知床半島である。知床は、アイヌ語で「シルエトク」(地の果て)と目録に何が僕もロマンを感じる1人なのである。そんな思いを抱きながら3カ月が経ち、センターの業務にも慣れてきたところである。

ここでの仕事は、主に森林の働きや森林づくりについて理解をしてもらうためのイベントなどを通じた普及活動、森林・動物植物などを含めた森林生態観察調査を通じての情報収集・提供、来訪者の案内、森林の巡視業務等々である。ここへ来る前にいた営林署とは違う業務に、森林の仕事を経験的に携わっていた僕にとっては、森林生態系の基礎的な知識を一から学べる職場でもあり大変興味深く毎日過ごしている。

この間に行ったイベント(3回実施)を経験し、企画・実施をすることも面白いが、イベントに参加した色々な方々に出会えるのはたいへん新鮮味があり楽しいことである。ただ、その反面、「この花は何?」などと聞かれると困ってしまい、今まで植物など関心がなかっただけに、当分の間は図書館の隅にこもりつつある。

こうして始まったセンターでの生活、当分はこの職場にいたいと思うが、そう何年も長く居れる訳ではないので、知床をテーマに自分なりに目的を持ち、ここでの仕事に取り組んでみたいと思う。

また、職場から見える斜里岳を初めとする知床連山を眺めていると、暫く遠のいていた山歩きも再開しようと思う。1人ぶらりと久しぶりに行った残雪の斜里岳も気持ちのよいものであったし、つい最近、羅臼岳・磯山山に出发してみた時は、雪解けが半月以上も遅れていたにも関わらず、頂上付近ではツガゲクラやイワヒゲ・キバナシヤクナグなどの花が所狭しと顔を覗かせていた。

もう、知床の短い夏は始まっている。